

CASBEE 新築[簡易版]

評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.5)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	YD計画 ロボット第2工場	階数	地上3F
建設地	福岡県北九州市八幡西区	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	700 人
気候区分		年間使用時間	2,500 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年7月 予定	評価の実施日	2012年9月24日
敷地面積	78,399 m ²	作成者	林
建築面積	5,674 m ²	確認日	2012年9月24日
延床面積	15,756 m ²	確認者	林



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6 ★★★★★

S: A: B+: B: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30% 60% 80% 100% 100%超

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 ・工場としての機能性と環境性能の融合を図る。		注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・F 材料の積極的採用 ・各ゾーン毎に制御できるシンプルな設備計画。	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・将来改修を考慮した、ゆとりのある空間計画(階高・荷重)。	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・既存建物との統一感(壁面線、色彩)を図る。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・年間照明消費エネルギー量の削減。高効率機器の採用	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・リサイクル資材の活用。	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・法規制の遵守

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい